

平成10年度秋冬作芝関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成10年度秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成11年6月30日(火)～7月1日(水)にホテルサンルート佐野において開催された。この検討会には、試験場関係者27名、委託関係者68

名ほか、計103名の参集を得て、除草剤38薬剤(373点)について、試験成績の報告と検討が行われた。その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成10年度 秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
1. AC-414 水和剤 シクロスルファミロン 10%	コウライバ (連用)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2)	[一年生広葉雑草] H10秋→H11春→H11秋→H12春 雑草発生前 0.4g<200-250> ; 一任	実 ・ 継	実) [コウライバ、ノシバ] 一年生広葉雑草 ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生前～発初期 (広葉雑草3葉期まで)。 ・ 0.2～0.4g<200-250>。 ・ 土壌処理または茎葉処理。 (継) ・ 連用試験の継続。 ・ 実証試験での確認。
	ノシバ (連用)	作用性 新 規	東日本G研、 中国G連G研 (2)			
	コウライバ	適用性 継 続	名取GC、 美野里GC、 新沼津CC、 タイフーンSGC、 宮崎CC (5)	[一年生広葉雑草] ①雑草発生前 0.2、0.3、0.4 g<200-250> ; インフール水和剤0.3 g<200-250> ; 土壌処理		
	コウライバ	適用性 継 続	名取GC、 美野里GC、 新沼津CC、 タイフーンSGC、 宮崎CC (5)	[一年生広葉雑草] ②雑草発初期 (広葉雑草3葉期まで) 0.2、0.3、0.4 g<200-250> ; インフール水和剤 0.3g<200-250> ; 土壌処理		
	ノシバ	適用性 継 続	植調岩手、 那須ナセー、 ウイング F GC、 東広野GC、 佐賀CC (5)	[一年生広葉雑草] ①雑草発生前 0.2、0.3、0.4 g<200-250> ; インフール水和剤0.3 g<200-250> ; 土壌処理		
[日本サイアミット]		ノシバ	適用性 継 続	植調岩手、 那須ナセー、 ウイング F GC、 東広野GC、 佐賀CC (5)		
				[一年生広葉雑草] ②雑草発初期 (広葉雑草3葉期まで) 0.2、0.3、0.4 g<200-250> ; インフール水和剤 0.3g<200-250> ; 土壌処理		

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
2. AC-828 乳剤 シメチリン 750g/L [日本ガイナミット]	コウライシバ	適用性 継 続	フ・ラッサム・デーモン、 美浦GC、 総武CC、 花屋敷GC、 門司GC (5)	[一年生雑草] ①雑草発生前 ; 0.15、0.25、0.35ml<200-300> ; 土壌処理 ; ハ・ナフイン顆粒水和剤 0.5g <200-300>	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生前～発生初期 (スズメノカタビラ2葉期まで)、 ・ 0.25～0.35ml<200-300>、 ・ 土壌処理または茎葉処理。 (継) ・ 低薬量での効果の確認。 ・ 実証試験での確認。
	コウライシバ	適用性 継 続	フ・ラッサム・デーモン、 美浦GC、 総武CC、 花屋敷GC、 門司GC (5)	[一年生雑草] ②雑草発生初期 (スズメノカタビラ2葉期迄) ; 0.15、0.25、0.35ml<200-300> ; 茎葉処理 ; アーゼラン80SG 0.4g <200-300>		
	ノシバ	適用性 継 続	植調岩手、 小杉CC、 富士国際GC、 桑名CC、 祁答院GC (5)	[一年生雑草] ①雑草発生前 ; 0.15、0.25、0.35ml<200-300> ; 土壌処理 ; ハ・ナフイン顆粒水和剤 0.5g <200-300>		
	ノシバ	適用性 継 続	植調岩手、 小杉CC、 富士国際GC、 桑名CC、 祁答院GC (5)	[一年生雑草] ②雑草発生初期 (スズメノカタビラ2葉期迄) ; 0.15、0.25、0.35ml<200-300> ; 茎葉処理 ; アーゼラン80SG 0.4g <200-300>		
	コナテカシ ワ、ツツジ 類 他3種	緑化木	鳥取園試、 福岡農総園研 (2)	[緑化木に対する影響] ①茎葉処理 0.35ml<200-300> ②土壌処理 0.7 ml<200-300> ; 無処理		
3. DAA-982 水和剤 既知化合物A 20% 既知化合物B 10% [大日本インキ 化学工業]	コウライシバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ①イネ科雑草発生前 0.1、0.2、0.3 g<200-300> ; フ・ロー・ヒ・イー水和剤 0.15g<200-300> (2) ; 土壌処理	一 ・ 成分未公開。	
	コウライシバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ②イネ科雑草発生初期 0.1、0.2、0.3 g<200-300> ; フ・ロー・ヒ・イー水和剤 0.15g<200-300> (2) ; 土壌処理		
	ノシバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2)	[一年生雑草] ①イネ科雑草発生前 0.1、0.2、0.3 g<200-300> ; フ・ロー・ヒ・イー水和剤 0.15g<200-300> (2) ; 土壌処理		
	ノシバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研、 (2)	[一年生雑草] ②イネ科雑草発生初期 0.1、0.2、0.3 g<200-300> ; フ・ロー・ヒ・イー水和剤 0.15g<200-300> (2) ; 土壌処理		

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 <=>中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
4. DAH-981 水和剤 ジチオレ (製剤変更) 40%	コライシバ	作用性 新 規	東日本G研、 中国G連G研 (2)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.2, 0.25, 0.3 g <200-300> ; 土壌処理 ; ディクトン乳剤 0.25ml<200-300>	実 ・ 継	実) [(コライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生前. ・ 0.1~0.2g<200~300>. ・ 土壌処理. 継) ・ 効果、薬害の確認. ・ 連用試験での確認. ・ 実証試験での確認.
	ノシバ	作用性 新 規	東日本G研、 中国G連G研 (2)			
	ブルー クラス (効果・ 薬害)	作用性 新 規	東日本現地、 那須ナセー (2)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.1, 0.15, 0.2g <200-300> ; 土壌処理 ; ディクトン乳剤 0.2ml<200-300>		
	ライクラス (効果・ 薬害)	作用性 新 規	那須ナセー (1)			
	コライシバ (倍量)	作用性 新 規	植調研究所、 宇都宮大学 (2)	[一年生イネ雑草] 雑草発生前 0.2g< 300>、 0.4g< 600>、 0.8g<1,200> ; 土壌処理 ; ディクトン乳剤 0.25ml<300>		
	ノシバ (倍量)	作用性 新 規	植調研究所、 宇都宮大学 (2)			
	コライシバ	適用性 新 規	東日本現地、 美野里GC、 植調研究所、 東日本G研、 中国G連G研、 西日本G研 (6)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.1, 0.15, 0.2g <200-300> ; 土壌処理 ; ディクトン乳剤 0.2ml<200-300> ; フロアビール水和剤(イネ科のみ) 0.2 g<200-300>		
[大日本インキ 化学工業]	ノシバ	適用性 新 規	東日本現地、 美野里GC、 植調研究所、 東日本G研、 中国G連G研、 西日本G研 (6)			
5. DEH-118 顆粒水和剤 イソキサベン Florasulam 60% 4%	コライシバ (連用)	作用性 継 続	植調研 (1)	[広葉雑草] H9秋→H10春→H10秋→H11春 雑草発生前初期 ; 0.1 g<150-200(展着剤加用)> ; 土壌処理	実 ・ 継	実) [(コライシバ、ノシバ) 広葉雑草] ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生前初期(3葉期まで). ・ 0.03~0.05g <150~200(展着剤加用)>. ・ 土壌処理. 継) ・ 連用試験の継続. ・ 実証試験での確認.
	ノシバ (連用)	作用性 継 続	植調研 (1)			
	コライシバ	適用性 継 続	ブラッサムガード (ハーマーダクラス)、 江戸崎CC、 浜松シーサイトGC、 南愛知CC、 久山CC (5)	[広葉雑草] 雑草発生前初期 0.03, 0.04, 0.05 g <150-200(展着剤加用)> ; 土壌処理 ; イソキサベン水和剤 0.3 g<200>		
	ノシバ	適用性 継 続	東蔵王GC、 佐野GC、南長野GC、 中国G連G研、 久山CC (5)			
[タケウケミカル日本]						

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/㎡ ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
6. DEH-94T01 ゾル剤 オキサリン 40.4% 〔ダウ・ケミカル日本〕	コウライシバ	適用性 継 続	小杉CC、 リバー富士CC、 浜松シオイトGC、 南愛知CC、 宮崎CC (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.2、0.3、0.4g<150-200> ; 土壌処理 ; DEH-94T01 DF 0.1g<150-200>	実・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 0.2~0.4g<200~300>。 ・ 土壌処理。 継) ・ 実証試験での確認。
	ノシバ	適用性 継 続	小杉CC、江戸崎CC、 甲府国際CC、 西日本G研、 佐賀CC (5)			
7. DH-80 粒剤 ヒトリバチカルブ 3.5% 〔大日本インキ 化学工業〕	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	奥武蔵CC、 西日本G研 (2)	[一年生イネ科雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 25 g ; 土壌処理 ; DH-80粒剤(単用) 25 g	実・ 継	実) [(コウライシバ、ベントグラス、 ブルーグラス)一年生イネ科雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 15~25g。 ・ 土壌処理。
	ベント グラス (連用)	作用性 継 続	東日本G研、 中国G連G研 (2)			
	ブルー グラス (連用)	作用性 継 続	植調研、 那須ナセリー (2)			
8. DH-81 粒剤 シチオヒル 0.16% 〔大日本インキ 化学工業〕	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	東日本G研、 西日本G研 (2)	[一年生イネ科雑草] H10春→H10秋→H11春→H11秋 雑草発生前 25 g ; 土壌処理 ; ティクトラン乳剤 0.15ml<200-300>	実・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生イネ科雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 15~25g。 ・ 土壌処理。 継) ・ 連用試験の継続。
	ノシバ (連用)	作用性 継 続	東日本G研、 西日本G研 (2)			
	コウライシバ	適用性 継 続	美野里GC、 東日本G研、 タイアースGC、 中国G連G研、 西日本G研 (5)	[一年生イネ科雑草] 雑草発生前 15、20、25 g ; 土壌処理 ; ティクトラン乳剤 0.15ml<200-300>		
	ノシバ	適用性 継 続	美野里GC、 東日本G研、 タイアースGC、 中国G連G研、 西日本G研 (5)			
	コウライシバ ・ ノシバ	実 証	埼玉県民G場、 リバー富士CC、 南愛知CC (3)	[一年生イネ科雑草] 雑草発生前 20 g ; 土壌処理 ; 一任		
9. DTH-85 水和剤 (グリヤト) テニクロール 50% 〔トクヤマ、大日本インキ 化学工業〕	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	奥武蔵CC、 中国G連G研 (2)	[一年生イネ科雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 0.5 g<200-300> ; 土壌処理 ; ティクトラン乳剤 0.15ml<200-300>	実・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生イネ科雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 0.3~0.5g<200~300>。 ・ 土壌処理。 継) ・ 養成芝での 効果、葉害の確認。
	ノシバ (連用)	作用性 継 続	植調研、 中国G連G研 (2)			
	コウライシバ (養成 芝)	適用性 継 続	茨城農総園研、 兵庫農技、 鳥取園試 (3)	[一年生イネ科雑草] (詳細は別途協議) 雑草発生前 0.1、0.2、0.3g<200-300> ; 土壌処理 ; 一任		

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	〔対象雑草、試験のねらい〕 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
10. ELH-201 トリフルリン 2% イソキサベン 0.5% 〔タウケミカル日本〕	コライシバ	適用性 新 規	小杉CC、 那須ナセー、 ウイングFGC、 南愛知CC、 門司GC (5)	〔一年生雑草〕 雑草発生前 4.6, 8g ; 土壌処理 ; ハナフィン粒剤 16g	継 継)	・ 効果、薬害の確認。 ・ 倍量薬害試験での確認。
	ノシバ	適用性 新 規	小杉CC、 那須ナセー、 ウイングFGC、 南愛知CC、 門司GC (5)			
11. ESH-01 顆粒水和剤 (ヘネフィクス 顆粒水和剤) ヘスロシン 58% 〔住友商事〕	コライシバ (連用)	作用性 継 続	那須ナセー (1)	〔一年生雑草〕 H9秋→H10春→H10秋→H11春 イネ科雑草発生前 0.7 g<200-300> ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 継	実) [(コライシバ、ノシバ) 一年生イネ科雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 0.5~0.7g<200~300>。 ・ 土壌処理。 継) ・ 一年生広葉雑草に対する 効果の確認。 ・ 連用試験の継続。
	ノシバ (連用)	作用性 継 続	植調研 (1)			
	コライシバ ・ノシバ	実 証	小杉CC、 美浦GC、 埼玉県民G場、 リハ富土CC、 門司GC (5)	〔一年生雑草〕 イネ科雑草発生前 0.5 g<200-300> ; 土壌処理 ; 一任		
12. FN-501 顆粒水和剤 カルフェントラゾンエチル 50% 〔エフ・エム・シー、 日産化学工業〕	コライシバ または ノシバ	適用性 継 続	宇都宮大学、 西日本G研 (2)	〔一年生広葉雑草 (ゴマノハグサ科、キク科、シソ科等)] 雑草発生前後〜初期(3葉期まで) 0.01, 0.015, 0.02g <200-300> ; 茎葉処理 ; MCPP 1ml<200-300>	実 ・ 継	実) [(コライシバ、ノシバ) 一年生広葉雑草] ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生前〜発生初期 (3葉期まで)。 ・ 0.01~0.02g <100~200(展着剤加用)>。 ・ 茎葉処理。 継) ・ 倍量薬害試験での確認。
13. HOK-9801 水和剤 テニクロール 50% イソキサベン 5% 〔北興化学工業、 トクヤマ〕	コライシバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 那須ナセー (2)	〔一年生雑草〕 雑草発生前 0.2, 0.4, 0.6g<200> ; 土壌処理 ; オフィアフル 0.2g<200>	継 継)	・ 効果、薬害の確認。 ・ 倍量薬害試験での確認。 ・ 連用試験での確認。
	コライシバ	適用性 新 規	小杉CC、 江戸崎CC(2)、 佐野GC、 東日本G研、 大阪農技 (5)	〔一年生雑草〕 雑草発生前 0.2, 0.3, 0.4g<200> ; 土壌処理 ; オフィアフル 0.2g<200>		
14. HW-T62 水和剤 (ヘンボール水和剤) DCBN 50% 〔保土谷アグロス〕	ノシバ (連用)	作用性 継 続	植調研 (1)	〔一年生雑草 及び多年生広葉雑草〕 H9秋→H10春→H10秋→H11春 雑草発生前または発生初期 (雑草、2-3葉期) 1.0 g<200> ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 継	(前回判定どおり) 実) [(コライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生前 〜発生初期(3葉期まで)。 ・ 0.5~1.0g<150~200>。 ・ 土壌処理。 継) ・ 連用試験の継続。 ・ 実証試験での確認。

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
15. JT-101 乳剤 (ク ^ラ ントリコ) ベ ^ラ ルコ ^ン 酸 52% [日本たばこ産業]	ノシハ ⁺ (倍量)	作用性 継 続	植調研究所 (1)	[ス ^ス メノカビ ^ラ 、広葉雑草] 芝休眠期 5ml<150>、10ml<300>、 20ml<600> ; 茎葉処理 ; -	実	実) [(ノシハ ⁺)一年生イネ科雑 草、広葉雑草] ・芝休眠期(1~2月)、 雑草生育期。 ・3~5ml<150~200>。 ・茎葉処理。
	ノシハ ⁺	実 証	美野里GC、 奥武蔵CC、 新沼津CC、 門司GC (4)	[ス ^ス メノカビ ^ラ 、広葉雑草] 芝休眠期 5ml<200> ; 茎葉処理 ; -		
16. MAC-1 フロアブル剤 (効果・ 薬害) クミロン 45% [丸紅]	フ ^ル グ ^ラ ス (効果・ 薬害)	作用性 新 規	東日本現地、 那須ナセリー (2)	[一年生雑草、 多年生イネ科雑草] ス ^ス メノカビ ^ラ 発生前 1.0、1.5、2.0、4.0ml<200-300> ; 土壌処理 ; 一任	継(継)	・効果、薬害の確認。
	ベ ^ン トク ^ラ ス (効果・ 薬害)	作用性 新 規	東日本現地、 那須ナセリー (2)			
	フ ^ル グ ^ラ ス	適用性 新 規	<札幌後楽園CC>、 廣済堂札幌CC、 札幌芙蓉CC、 サ ^サ ・ク ^ク リーンフ ^フ ライヤー-WV (4)	[一年生雑草、 多年生イネ科雑草] ス ^ス メノカビ ^ラ 発生前 1.0、1.5、2.0ml<200-300> ; 土壌処理 ; エイケン水和剤 1.5g<200-300>		
	ベ ^ン トク ^ラ ス	適用性 新 規	青森CC、 泉パークタウンGC、 総武CC、大月CC、 祁答院GC (5)			
17. MBH-98 水和剤 イソキサベン 30% オキサジ ^ン アルキ ^ル 30% [丸和ハ ^ハ イケミカル]	コウライシハ ⁺	適用性 新 規	那須ナセリー、 佐野GC、 東日本G研、 中国G連G研、 西日本G研 (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.075、0.1、0.15g<200-300> ; 土壌処理 ; フ ^フ ロハービ ^ビ エ ^エ 水和剤 0.15g<200-300>	継(継)	・効果、薬害の確認。 ・倍量薬害試験での確認。 ・連用試験での確認。
18. MN-93① 水和剤 (フ ^フ ロハービ ^ビ エ ^エ ①) 水和剤 ジ ^ジ チオビ ^ビ ル 12% ハスルフロシメチル 10% [日産化学工業]	コウライシハ ⁺	適用性 継 続	小杉CC、 埼玉県民G場、 新沼津CC、 タイガ ^ス GC、 久山CC (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.2、0.3、0.4 g<200-300> ; 土壌処理 ; フ ^フ ロハービ ^ビ エ ^エ 水和剤 0.3 g<200-300>	実・ 継	実) [(コウライシハ ⁺ 、ノシハ ⁺) 一年生雑草] ・芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・0.2~0.4g<200~300>。 ・土壌処理。 継) ・倍量薬害試験での確認。 ・連用試験での確認。 ・実証試験での確認。
	ノシハ ⁺	適用性 継 続	富士国際GC、 甲府国際GC、 南長野GC、桑名CC、 久山CC (5)			
19. NC-341 水和剤 (フ ^フ ラスコンM) MCPイソ ^ソ プロピ ^ピ ルアミン塩 40% [日産化学工業]	フ ^フ ルグ ^ラ ス	適用性 継 続	青森CC、 <泉パークタウンGC>、 サ ^サ ・ク ^ク リーンフ ^フ ライヤー-WV (3)	[広葉雑草] 雑草生育期 0.75、1.0、1.5 g<200> ; 茎葉処理 ; 一任	実	実) [(フ ^フ ルグ ^ラ ス、ライグ ^グ ラス) 広葉雑草] ・芝生育期(秋)、雑草生育期。 ・0.75~1.5ml<200>。 ・茎葉処理。
	ライグ ^グ ラス	適用性 継 続	フ ^フ ラサム ^ム グ ^グ ーテン ^ン 、 那須ナセリー、 祁答院GC (3)			

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
20. NC-359 粒剤 (ブ ラント プラス) ジチオビル 0.13% (N:P:K=8:8:8) [日産化学工業]	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	西日本G研 (1)	[一年生雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 60 g ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前. ・ 30~60g. ・ 土壌処理. 継) ・ 実証試験での確認.
21. NC-380 顆粒水和剤 トリアシ フラム 30% ハロスルフロメチル 30% [出光興産、 日産化学工業]	コウライシバ	適用性 継 続	名取GC、美野里GC、 浜松シサイトGC、 関西G研、 佐賀CC (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.075、0.1、0.15 g<200-300> ; 土壌処理 ; イテトップフロアブル剤 0.1 g<200-300>	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前. ・ 0.075~0.15g<200~300>. ・ 土壌処理. 継) ・ 連用試験での確認. ・ 実証試験での確認.
22. NCH-94 顆粒水和剤 (サンシールト DF) カフエントロール 50% ハロスルフロメチル 10% [日産化学工業]	コウライシバ	適用性 継 続	ウヰンク FGC、佐野GC、 浜松シサイトGC、 南愛知CC、 西日本G研 (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.2、0.3、0.4g<200-300> ; 土壌処理 ; NCH-94水和剤 0.3g<200-300>	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前. ・ 0.2~0.3g<200~300>. ・ 土壌処理. 継) ・ 倍量薬害試験での確認.
23. NP-63 液剤 メコフ ロップ P 52% [日本曹達]	コウライシバ (倍量)	作用性 新 規	植調研究所、 宇都宮大学 (2)	[広葉雑草、スギナ] 雑草生育期 0.5ml<200>、 1.0 <400>、 2.0 <800> ; 茎葉処理 ; 一任	実	実) [(コウライシバ、ノシバ、 ブ ルー グ ラ ス) 広葉雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草生育期. ・ 0.25~0.5ml<200>. ・ 茎葉処理.
	ノシバ (倍量)	作用性 新 規	植調研究所、 宇都宮大学 (2)			
	ブ ルー グ ラ ス (倍量)	作用性 新 規	植調研究所、 那須ナセー (2)			
	ノシバ	適用性 継 続	植調岩手、 小杉CC、 西日本G研 (3)	[広葉雑草、スギナ] 雑草生育期 0.25ml<200(展着剤加用)> ; 茎葉処理 ; NP-63液剤 0.25ml<200(展着剤無加用)>		
	コウライシバ	実 証	埼玉県民G場、 今治CC、 門司GC (3)	[広葉雑草、スギナ] 雑草生育期 0.375ml<200> ; 茎葉処理 ; 一任		
	ノシバ	実 証	ブ ラッサムカ プテン、 リバー富士CC、 祁答院GC (3)			
	ブ ルー グ ラ ス	実 証	札幌後楽園CC、 札幌不二ロイヤルGC (2)			

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
24. OK-701 40F フロアフル剤 新規化合物 40% [大塚化学]	コウライシバ	適用性 新 規	茨城農総園研、 大阪農技、 兵庫農技、 関西G研、 福岡農総園研 (5)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.1, 0.15, 0.2ml<200-300> ; 土壌処理 ; ティクトラン乳剤 0.15ml<200-300>	継	継) ・成分未公開. ・効果、薬害の確認.
25. RH-315N 水和剤 (クサゴーン水和剤) ハスルフロメチル 10% プロピザミド 40% [アグリート]	コウライシバ (連用) ノシバ (連用)	作用性 継 続 作用性 継 続	那須ナセー、 東日本G研 (2) 那須ナセー、 東日本G研 (2)	[一年生雑草] H10春→H10秋→H11春→H11秋 雑草発生前 0.3 g<200-300> ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 継	(前回判定どおり) ・実[コウライシバ]一年生雑草 ・芝生育期(秋)、 雑草発生前〜雑草発生初期 (3葉期まで). ・0.15〜0.3g<200-300>. ・土壌処理. 継) ・倍量薬害試験での確認. ・連用試験の継続. ・実証試験での確認.
26. RYH-105 フロアフル剤 (フルハウスフロアフル) オキサジクロメホン 30% [ローヌ・ブーラン 油化アクト]	コウライシバ (連用) コウライシバ	作用性 新 規 適用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2) 小杉CC、 東日本G研、 兵庫農技、 中国G連G研、 福岡農総園研 (5)	[一年生イネ科雑草] H10秋→H11春→H11秋→H12春 雑草発生前 0.2ml<200-300> ; 土壌処理 ; 一任 [一年生雑草] 雑草発生前 0.1, 0.15, 0.2ml<200-300> ; 土壌処理 ; 別途協議	実 ・ 継	実[コウライシバ] 一年生イネ科雑草] ・芝生育期(秋)、雑草発生前. ・0.1〜0.15g<200-300>. ・土壌処理. 継) ・効果、薬害の確認. ・連用試験の継続. ・倍量薬害試験での確認.
27. RYH-106 フロアフル剤 オキサジアルギル 34.5% [ローヌ・ブーラン 油化アクト]	ノシバ (連用)	作用性 継 続	植調研究所 (1)	[一年生雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 0.2ml<200-300> ; 土壌処理 ; 一任	継	継) ・効果、薬害の確認.
28. SB-5481 水和剤 新規化合物 60% [エス・ディー・エス バィオテック]	コウライシバ (効果・ 薬害) ノシバ (効果・ 薬害) コウライシバ ノシバ	作用性 新 規 作用性 新 規 適用性 新 規 適用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2) 植調研究所、 西日本G研 (2) 東日本現地、 小杉CC、 茨城農総園研、 関西G研、 福岡農総園研 (5) 植調岩手、 東日本現地、 那須ナセー、 関西G研、 中国G連G研 (5)	[雑草全般] 雑草発生前 0.3, 0.6, 1.2, 2.4g<200-250> ; 土壌処理 ; パナフィン顆粒水和剤 0.5g<200-250> [一年生雑草] 雑草発生前 0.3, 0.45, 0.6g<200-250> ; 土壌処理 ; パナフィン顆粒水和剤 0.5g<200-250>	継	継) ・成分未公開. ・効果、薬害の確認.

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 <=>中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
29. SL-160 フザスルフロ 0.1%	コライシバ (連用)	作用性 継 続	関西G研 (1)	[一年生雑草、ハマスグ、ヒメクグ] H9秋→H10春→H10秋→H11春 雑草発生前 8 g ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 実 継	(前回判定どおり) ・ 実[コライシバ、ノシバ] 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 4~6g ・ 土壌処理。 継) ・ ハマスグ、ヒメクグに対する効果の 確認。 ・ 連用試験の継続。 ・ 実証試験での確認。
	ノシバ (連用)	作用性 継 続	東日本G研 (1)			
	コライシバ	適用性 継 続	奥武蔵CC、 中国G連G研 佐賀CC (3)	[ハマスグ] 一年生雑草発生前 5, 6, 8 g ; 土壌処理 ; 一任		
	ノシバ	適用性 継 続	奥武蔵CC、 佐賀CC (2)			
	コライシバ	適用性 継 続	浜松シサイトGC、 桑名CC (2)	[ヒメクグ] 一年生雑草発生前 5, 6, 8 g ; 土壌処理 ; 一任		
[石原産業]	ノシバ	適用性 継 続	奥武蔵CC、 祁答院CC (2)			
30. SW-989① エントタル2カリウム 2.11% (エントタル酸として 1.50%)	コライシバ (新・ 旧)	作用性 新 規	宇都宮大学、 大阪農技セ (2)	[スズメノカタビラ、一年生広葉雑草] 芝休眠期、 雑草生育初期～生育期 8, 12ml<200(展着剤加用)> ; 茎葉処理 ; エントタル液剤(Na塩) 8, 12ml<200(展着剤加用)>	実 ・ 実 継	実) [(コライシバ、フールグラス) スズメノカタビラ] ・ コライシバ休眠期、 フールグラス生育期(秋冬)、 スズメノカタビラ生育期。 ・ コライシバ 8~12ml<200>、 フールグラス 2~6ml<200>。 ・ 茎葉処理。 継) ・ 効果(特に、雑草の大きさと 薬量)、薬害の確認。 ・ 倍量薬害試験での確認。 ・ 実証試験での確認。
	コライシバ	適用性 新 規	東日本現地、 小杉CC、 那須ナセリー、 桑名CC、 鳥取園試 (5)	[スズメノカタビラ、一年生広葉雑草] 芝休眠期、 雑草生育初期～生育期 8, 10, 12ml<200(展着剤加用)> ; 茎葉処理 ; エントタル液剤(Na塩) 10ml<200(展着剤加用)>		
	フールグ ラス	適用性 新 規	廣済堂札幌CC、 札幌不二ロイヤルGC、 札幌芙蓉CC、 青森CC (4)	[スズメノカタビラ、一年生広葉雑草] 芝休眠期、 雑草生育初期～生育期 2, 4, 6ml<200(展着剤加用)> ; 茎葉処理 ; エントタル液剤(Na塩) 4ml<200(展着剤加用)>		
[三共]						
31. SW-989② エントタル2カリウム 3.54% (エントタル酸として 2.50%)	フールグ ラス	適用性 新 規	廣済堂札幌CC、 札幌不二ロイヤルGC、 札幌芙蓉CC、 青森CC (4)	[スズメノカタビラ、一年生広葉雑草] 雑草生育初期～生育期 5, 10g ; 土壌処理 ; エントタル粒剤25(Na塩) 5g	実 ・ 実 継	実) [(フールグラス)スズメノカタビラ] ・ フールグラス生育期(秋冬)、 スズメノカタビラ生育期。 ・ 5~10g。 ・ 土壌処理。 継) ・ 効果、薬害の確認。 ・ 倍量薬害試験での確認。 ・ 連用試験での確認。 ・ 実証試験での確認。
	フェスク	適用性 新 規	札幌後楽園CC、 フラスサムガーデン、 サ・グリーンフレイヤーWV 那須ナセリー (4)			
[三共]						

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
32. SW-989⑩ 液剤 エントール2カリウム 21.1% (エントール酸として 15.0%) [三共]	コウライシバ	適用性 新 規	美野里GC、 奥武蔵CC、 南愛知CC、 関西G研、 宮崎CC (5)	[スズメノカタビラ、一年生広葉雑草] 芝休眠期、 雑草生育初期～生育期 0.8、1.0、1.2ml <200(展着剤加用)> ; 茎葉処理 ; エントール液剤H(Na塩) 1ml<200(展着剤加用)>	実 ・ 継	実) [(コウライシバ)スズメノカタビラ] ・コウライシバ 休眠期、 スズメノカタビラ生育期。 ・0.8～1.2ml<200>。 ・茎葉処理。 継) ・効果、薬害の確認。 ・倍量薬害試験での確認。 ・実証試験での確認。
33. TG-02 粒剤 トリフルリン 0.67% ヘスロシン 1.33% [東洋クレーン、 タウケミカル日本]	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	植調研、 中国G連G研 (2)	[一年生雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 20g ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生イネ科雑草] ・芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・10～20g。 ・土壌処理。 継) ・倍量薬害試験での確認。 ・実証試験での確認。
	コウライシバ	適用性 継 続	名取GC、 東日本G研、 大月CC、 東広野GC、 今治CC (5)	[一年生雑草] (詳細は別途協議) 雑草発生前 10、15、20g ; 土壌処理 ; ハナフィン粒剤 16g		
	ノシバ	適用性 継 続	名取GC、 東日本G研、 大月CC、 東広野GC、 今治CC (5)			
34. TG-03 粒剤 オキサリン 1.0% ヘスロシン 1.0% [東洋クレーン、 タウケミカル日本]	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	植調研、 中国G連G研 (2)	[一年生雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 20g ; 土壌処理 ; 一任	実 ・ 継	実) [(コウライシバ、ノシバ) 一年生イネ科雑草] ・芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・10～20g。 ・土壌処理。 継) ・倍量薬害試験での確認。 ・実証試験での確認。
	コウライシバ	適用性 継 続	名取GC、 東日本G研、 大月CC、 東広野GC、 今治CC (5)	[一年生雑草] (詳細は別途協議) 雑草発生前 ; 10、15、20g ; 土壌処理 ; ハナフィン粒剤 16g		
	ノシバ	適用性 継 続	名取GC、 東日本G研、 大月CC、 東広野GC、 今治CC (5)			

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 ＜ ＞=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ；薬量g・ml＜水量ml＞／㎡ ；処理方法 ；比較剤	判 定	内 容
35. TH-913H4 フロアフル剤 イマゾスルフロン 40% (製剤変更)	コウライシバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2)	[一年生広葉雑草] 雑草発生初期(3葉期まで) 0.1、0.2、0.4、0.8ml＜200-300＞ ；茎葉処理 ；シバタイフロアフル剤 0.464、0.3712ml＜200-300＞	実・ 継	実) [(コウライシバ、 一年生広葉雑草] ・ 芝生育期(秋)、 雑草発生初期(3葉期まで)、 ・ 0.1～0.2ml＜200-300＞、 ・ 茎葉処理、 継) ・ 効果、薬害の確認、 ・ ハマスゲ、ヒメクグに対する効果の 確認、 ・ 連用試験での確認、 ・ 実証試験での確認、
	シバ (効果・ 薬害)	作用性 新 規	植調研究所、 西日本G研 (2)			
	コウライシバ	適用性 新 規	東蔵王GC、 東日本現地、 那須ナセー、 総武CC、 南愛知CC (5)	[一年生広葉雑草] 雑草発生初期(3葉期まで) 0.1、0.15、0.2ml＜200-300＞ ；茎葉処理 ；シバタイフロアフル剤 0.8ml＜200-300＞		
	シバ	適用性 新 規	東蔵王GC、 東日本現地、 那須ナセー、 総武CC、 南愛知CC (5)			
	シバ	作用性 新 規	宇都宮大学、 奥武蔵CC (2)			
	コウライシバ	適用性 新 規	中国G連G研 (1)	[ハマスゲ] ハマスゲ発生初期(3葉期まで) 0.1、0.15、0.2ml＜200-300＞ ；茎葉処理 ；シバタイフロアフル剤 0.8ml＜200-300＞		
	シバ	適用性 新 規	中国G連G研 (1)			
	シバ	作用性 新 規	宇都宮大学、 奥武蔵CC(2) (2)	[ヒメクグ] ヒメクグ発生初期(3葉期まで) 0.1、0.2ml＜200-300＞ ；茎葉処理 ；シバタイフロアフル剤 0.464、0.928ml＜200-300＞		
	コウライシバ	適用性 新 規	宇都宮大学 東日本G研、 中国G連G研 (3)	[ヒメクグ] ヒメクグ発生初期(3葉期まで) 0.1、0.15、0.2ml＜200-300＞ ；茎葉処理 ；シバタイフロアフル剤 0.8ml＜200-300＞		
	シバ	適用性 新 規	宇都宮大学 東日本G研、 中国G連G研 (3)			
[武田薬品工業]						
36. YH-592 水和剤 カフェンストロール 60% シノスルフロン 5% [八洲化学工業]	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	西日本G研 (1)	[一年生雑草] H10春→H10秋→H11春→H11秋 雑草発生前 0.3g＜200-300＞ ；土壌処理 ；一任	—	—
	シバ (連用)	作用性 継 続	植調研究所 (1)			

薬 剤 名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 続 の 別	試験実施場所 く>=中間または 試験実施中(数)	[対象雑草、試験のねらい] 処理時期 ; 薬量g・ml<水量ml>/m ² ; 処理方法 ; 比較剤	判 定	内 容
37. ナブ [®] ロバ [®] ミト [®] 顆粒水和剤	コウライシバ (連用)	作用性 継 続	植調研究所、 中国G連G研 (2)	[一年生雑草] H9春→H9秋→H10春→H10秋 雑草発生前 0.6 g<200-300> ; 土壌処理 ; 一任	実	実) [(コウライシバ [®] 、ノシバ [®]) 一年生雑草] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 0.3~0.6g<200~300>。 ・ 土壌処理。
ナブ [®] ロバ [®] ミト [®] 48%	ノシバ [®] (連用)	作用性 継 続	植調研究所、 中国G連G研 (2)			
	コウライシバ	適用性 継 続	名取GC、新沼津CC、 花屋敷GC、 宮崎CC (4)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.3、0.4、0.6 g<200-300> ; 土壌処理 ; ナブ [®] ロバ [®] ミト [®] 水和剤 0.6 g<200-300>		
	ノシバ [®]	適用性 継 続	植調岩手、 甲府国際CC、 花屋敷GC、 久山CC (4)			
	コウライシバ	実 証	美野里GC、 富士国際GC、 今治CC (3)	[一年生雑草] 雑草発生前 0.6 g<200-300> ; 土壌処理 ; 一任		
[セ [®] 秘]	ノシバ [®]	実 証	小杉CC、 リバー富士CC (2)			
38. プ [®] ロシ [®] アミン 顆粒水和剤 (クサブ [®] ロック)	ノシバ (連用)	作用性 継 続	西日本G研	[一年生雑草] H10春→H10秋→H11春→H11 秋雑草発生前 0.12 g<250-300> ; 土壌処理 ; 一任	実・ 継	(平成7年度判定どおり) 実) [(コウライシバ [®] 、ノシバ [®] 、ヘントウガラ ス、ブ [®] ル [®] グ [®] ラス、ハ [®] ミュ [®] ター [®] グ [®] ラス) 一年生雑草(キク科を除く)] ・ 芝生育期(秋)、雑草発生前。 ・ 一年生雑草対象 ; 0.12~0.24g<200~250>、 一年生イネ科雑草対象 ; 0.08~0.1g<200~250>。 ・ 土壌処理。 継) ・ 低薬量の効果確認。
プ [®] ロシ [®] アミン 63%						
[ノバ [®] ルティスアグ [®] ロ]			(1)			

平成10年度秋冬作芝関係成績検討会に先立ち、元宇都宮大学教授の近内専門調査員の司会進行によりゴルフ場における最近の秋冬期における問題雑草についての情報交換会が持たれ、各ゴルフ場の担当者から活発な意見が出されたのでその概要を報告する。

各ゴルフ場の共通の問題雑草としては、スズメノカタビラ類および藻類があげられた。とくにスズメノカタビラ類については従来の一年生種に代わり多年生種のツルスズメノカタビラが増加している模様であり、奥武蔵CCのように最近3～4年の間にコース内のスズメノカタビラ類のなかでツルスズメノカタビラが発生量の約8割を占めるまでに至っているという事例も報告された。近内氏によると本種はスズメノカタビラと異なり種子の休眠性が浅く、周年防除が必要であり早急な防除法の確立が必要であると指摘された。そのほか寒地型芝草内(南長野GC)あるいはウインターオーバーシーディングの場面におけるスズメノカタビラ防除(久山CC)も大きな問題であり選択性を持つ除草剤の開発が望まれた。

藻類についてはとくにグリーンにおいて発生が多くみられ、過灌水や排水不良などの条件で発生が助長される様

である(ブラッサムガーデンC、門司GC、宮崎CCなど)。藻類の防除は従来殺菌剤等に対応していたが、使用規制などにより有効な剤の使用が制限された現状を反映し多くのゴルフ場で問題が顕在化しているものと考えられる。

その他の問題雑草としては、グリーンにおけるチドメグサ(門司CC)、寒地型芝草内のタンポポ類(南長野CC)、ヒメクグの多発生(祁答院GC)、フェアウェイに侵入したベントグラス(ブラッサムガーデンC)などがあげられた。

全体的に管理経費節減に伴う除草剤散布の減少や散布の仕方が変わってきたことによって特定雑草の多発および発生雑草の多様化が進んできており、今後はこのような現状に対応した防除体系の確立が要望された(小杉CC、佐野GCなど)。

今回の情報交換は、試験成績検討会のなかでのしかも短時間ではあったが、現状を反映した新鮮な情報が提供され、参加した試験機関、関係会社にとって有用なものであった。今後も個々の薬剤の検討のみにとどまらず、このような情報交換を随時行い、実状に即応した薬剤の開発および芝地の管理技術の開発に役立てるべきと考える。

(植調研究所 橋本匡人、土田邦夫)